

臨床検査の保険適用について(平成23年8月収載予定)

	測定項目	参考点数
①	E2 (新方法) WT1 mRNA核酸増幅検査	D006-7 WT1 mRNA核酸増幅検査 2,000点
②	E2 (新方法) 骨型アルカリフォスファターゼ	D007 15 アルカリフォスファターゼ 48点
③	E3 (新項目) ヒト尿中L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)	D001 尿中特殊物質定性定量検査 14 尿中IV型コラーゲン 210点

## 臨床検査の保険適用について

区分 E3(新項目)(測定項目が新しい品目)

測定項目	測定方法	主な測定目的	点数
ヒト尿中L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)	酵素免疫測定法 (ELISA法)	尿中のL型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)の測定 (尿細管機能障害を伴う腎疾患の診断の補助)	210点

(参考)

- ・ 保険適用希望業者 シミック株式会社
- ・ 商品名 レナゾローFABPテスト
- ・ 参考点数 D001 尿中特殊物質定性定量検査 14 尿中IV型コラーゲン
- ・ 判断料 D026 検体検査判断料 1 尿・糞便等検査判断料 34点

# 保険適用希望のあった新規の検査項目の概要

【区 分】 E3(新項目)(測定項目が新しい品目)

【測定項目】 ヒト尿中L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)

【測定方法】 酵素免疫測定法(ELISA法)

【測定内容】 尿中のL-FABPの測定

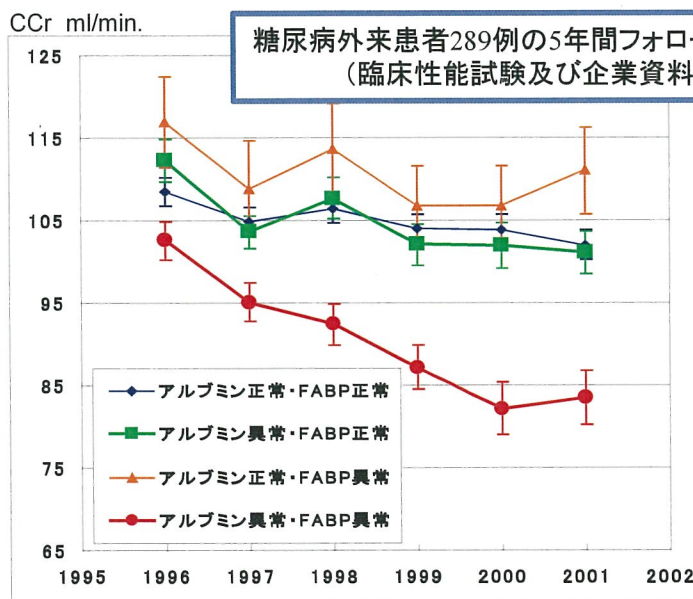
(尿細管機能障害を伴う腎疾患の診断の補助)

【主な対象】 ① eGFR $\geq$ 60の、断続的に治療を受けている糖尿病患者、糸球体腎炎などの慢性腎臓病が疑われる患者

② 急性腎障害が確立されていない、薬剤性腎障害、敗血症または多臓器不全等の患者

【有用性】 ① 腎機能が低下する以前の糖尿病患者に対して、本検査を行うことにより糖尿病性腎症の病期進行リスクを判別し、また治療効果の判定にも使用できる可能性がある。

② 急性腎障害が確立されていない、敗血症または多臓器不全等の患者対し、治療転帰を含めた重症化リスクを判別することで、血液浄化療法などの適応判断に利用可能性がある。



試験開始時にアルブミン+FABPにより4群に層別し、腎機能(CCr)の年次推移を追跡した結果、微量アルブミン尿(2期)の患者から、**低リスク群**と**高リスク群**を判別できた。

**腎臓**

血中・糸球体由来  
↓  
過機能の破綻  
↓  
アルブミン  
トランスフェリン  
IV型コラーゲン

従来の尿検査は糸球体や尿細管の組織障害の結果、尿中に漏出した物質を定量する。

尿細管の炎症  
↓  
NAG  
β 2-M

組織障害が進行する以前の、尿細管への虚血・酸化ストレスによって尿中に排出される。

尿細管細胞由来  
↓  
虚血・酸化ストレス  
↓  
L-FABPの漏出

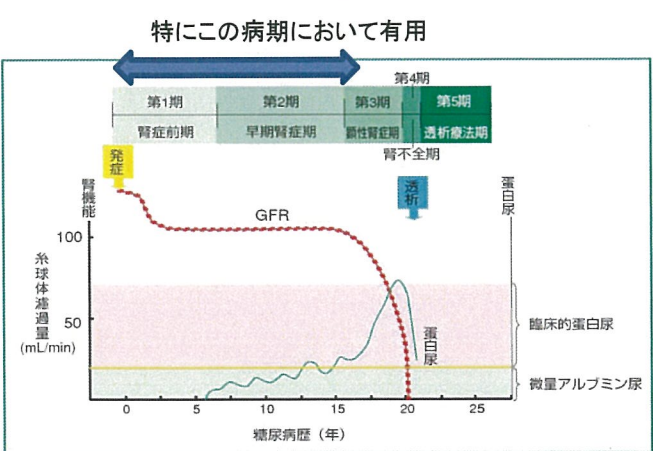


図21 2型糖尿病性腎症の臨床経過

CKD診療ガイド2009(日本腎臓学会)より